

Aikoh

福祉社会への道を照らす 愛の灯台
～一隅を照らす実践、地域への貢献～ No.89

特集

多様な支えあいの拠点
～活気ある事業が彩る愛光の地域福祉～

絆をむすぶ 心通わせて
日韓福祉交流研修記

認知症サポーター養成講座
in 山王小学校

事業報告・決算報告

感謝のコーナー / 日誌抄録 / 編集後記

お知らせ / Aikohフォーラム・愛光秋まつり



特集

多様な支え合いの拠点 ～活気ある事業が彩る愛光の地域福祉～

もうじき季節は実りの秋を迎えます。佐倉は稲刈りによる米穀のよい香りが感じられ、収穫を祝う地域ごとの祭りが賑わいを見せる時期になります。特に佐倉市の南部地域は、印旛沼水系を活かした広大な田畑がひろがる一方、工業団地等による産業拠点としての色もある地域となっており、豊かな自然と、社会に生きる人々の営みが共存しています。

愛光の地域福祉事業部はそこに暮らす人々の交流拠点としての役割を担うべく、様々な事業を展開しています。佐倉市より指定管理を受け、南部地域福祉センターを始め、佐倉市南部児童センター、8ヶ所の学童保育所を運営しています。子どもから大人まで、幅広い年齢層の方々と共に、活気ある地域づくりを目指しています。



地域福祉事業部の構成



佐倉市指定管理者施設南部地域福祉センター

佐倉市南部地域における地域福祉活動の拠点として、地域住民の交流や福祉活動および地域活動をサポートすべく、さまざまな事業を行っています。

高齢者を対象とした交流事業では、教養教室として「民謡」、「大正琴」、「書道」、「いけばな」、「太極拳」、「詩吟」、「健康麻雀」などが開講されているほか、介護予防体操も実施されています。

また、ヨガなどアクティブシニア事業や、ふれあいサロン事業も展開。さらに、南部文化祭や教養教室発表会などの文化祭・発表会といったイベント事業を通じてより多くの方々に各活動を知っていただく機会も設けています。

加えて、ボランティアセンターの運営やゲートボール、踊り、陶芸、囲碁、手芸、カラオケなどの活発な同好会活動も行われ、地域全体の活性化に寄与しています。



佐倉市指定管理者施設南部児童センター

南部福祉センターの2階にある当施設は、年間で乳幼児親子から高校生まで約2万7千人が集まる、児童健全育成・子育て支援の拠点です。

乳幼児親子向けのイベントや、交流・集いの場として「ひよこタイム」「ゆりかごタイム(0歳児親子対象)」「ペンギンちゃんクラス(1, 2歳児親子対象)」を実施しています。他に、小中学生を対象とした季節の行事や人気のスポーツ大会など多様なイベントを開催しています。

児童センターが家庭や学校とは異なる「第3の居場所」としてもらえようように心がけています。



学童保育所

佐倉市南部に点在する8ヶ所の学童保育所を市の指定管理者として運営しています。放課後や学校長期休業期間等における家庭に代わる安心、安全な生活の場の提供に努めています。

耳をすまして声を聞き、目をこらして心によりそう…子どもたちがまた来なくなる場を目指しています。



地域福祉事業部長より

南部地域福祉センター、南部児童センター・学童保育所は、佐倉市の指定管理を受けて、社会福祉法人愛光が事業を運営しています。これらのセンターは現在、南部地域の福祉の拠点、地域住民の交流の場として機能しています。「この南部のセンターにあれば何かがある。」「愛光が指定管理者で良かった。」と利用する方に思ってもらえるよう、これからもサービスを展開していきます。乳幼児から児童、高齢者まで、多世代が集える、交流できる場所を目指していきます。

地域福祉事業部長 横川民夫





2025年度 事業報告

法人本部

2025年度は法人設立70周年の節目を迎え、次世代への継承と発展を誓う飛躍の年となりました。組織面では職員400名突破に伴い「5S活動」を導入し業務効率化を推進。施設面では「はちす苑」の大規模修繕や障害者グループホーム「宮前の家」開設など、環境整備とサービス充実に努めました。人材確保では学生向け職場体験を初開催し、福祉の魅力を発信。国際交流では韓国「ラファエルの家」との連携を深めました。また、地域連携を強化し、近隣小中学校での福祉学習や「ゼロ円バザー」を実施。今後も地域社会と深く連携しながら、質の高い福祉の提供と組織の発展を目指し、愛光の福祉の輪を力強く広げてまいります。

ルミエール

「支え合い、共に輝く」をスローガンに、利用者・職員・家族が相互に支え合う運営を推進しました。制度改定や感染症対応という困難を組織一丸となって乗り越え、安定した事業運営を実現しています。サービス面では自立支援を目的とした個別活動へ移行し、機械浴槽の導入で入浴環境も向上しました。人材育成ではフロアリーダー体制を強化し、事例検討を通じて専門性を高めています。また、見守りカメラの活用、リスク点検を徹底したことで安全管理体制が強化され、事故件数の減少にもつながりました。今後も虐待防止の徹底や地域連携の強化を図り、安心と安全を守り抜く質の高い支援の提供に邁進してまいります。

リホープ

「生き方の意思決定をしっかりと支えよう」をスローガンに掲げ、利用者の高齢化・重度化に伴う長期入院増に対応しました。現場の不安解消のため、看取りマニュアルを作成し、利用者の直近の思いを反映できるようエンディングノートの更新を定例化するなど、意思決定支援体制を強化しました。人材育成では介護技術や事例検討の研修を拡充し、専門性を向上。事業部内では施設間の入所者移動に関する連携を深め、事業部間では高齢者支援事業部との共生型の連携により、施設間の相互利用や緊急時の応援体制も効率化しました。今後も利用者の人生に寄り添う質の高い支援の追求と、組織連携の強化に取り組んでまいります。

健康管理部

当年度は利用者の健康維持と質の高いケア提供に注力しました。協力医療機関である佐倉中央病院との連携会議を定例化し、医療体制の強化を図ったほか、摂食嚥下や口腔ケア、褥瘡予防、看取りケアに関する専門研修を重ね、職員のスキル向上に努めました。また、新興感染症への対応協議会を設置し、安全な施設運営体制を整えています。職員の心身の健康にも配慮しつつ、機能訓練士によるADL維持・QOL向上への助言や、災害時の事業継続に向けたフローチャート作成も進めました。物価高騰による食材費への対応という課題もありましたが、今後も安心・安全な福祉環境の提供に向け、専門職連携と組織一丸となった取り組みを継続してまいります。

めいわ

スローガン「ライフ・ワーク・バランス」のもと、高齢化・重度化が進む利用者の生活支援を強化した一年でした。医療機関受診や入院を要するケースが増加したことを受け、ご本人の尊厳とご家族の意向を尊重した「緊急時等の治療に関する事前確認」を全家族と共有する体制を整えました。活動面では職員数減の中でも工夫を凝らし、誕生日外出などで生き甲斐を創出。地域ニーズに応えるロングショートや日中一時支援にも注力し、在宅生活を支える役割を担いました。また、虐待防止や高齢期支援の研修、新興感染症への対策協議会を通じ、職員の専門性と危機管理体制を強化。意思決定支援会議を導入するなど、一人ひとりの意向を大切に作る環境づくりに努めました。

根郷通所センター

「安心と信頼の支援で利用者の地域生活を支える」をスローガンに掲げ、若年層の新規利用者3名を迎えました。ご家族の「在宅生活継続」の願いに寄り添い、信頼関係を重視した支援体制づくりを推進しました。サービス面では、オンライン導入により満足度調査の回答率が97%へ向上。旅行や外出活動が高評価を得たほか、工賃還元や自主製品の販路拡大にも着手しました。職員育成では内部研修の成果として対応技術の向上が見られる一方、医療連携や家族支援の強化という新たな課題も浮き彫りとなりました。今後も作業と余暇の充実を図り、利用者一人ひとりの意向を尊重した、質の高い地域生活支援に邁進いたします。

山王の家

「地域の中で、自分らしい生活を」をスローガンに掲げ、利用者一人ひとりの安心・安全な暮らしを支えました。医療的ケアが必要な方への対応や感染症対策に取り組み、家族の高齢化に伴う「親亡き後の不安」といった切実な悩みにも、職員一丸となって寄り添い続けています。人材育成では虐待防止等の研修を徹底し、関係各所との密な連携でトラブルを最小限に抑えました。また、嘱託医や看護師との連携による健康管理体制の強化や、地域連携推進会議を通じた地域交流も推進。災害時や新興感染症への備えとして、避難訓練や医療機関との協議会も実施しました。今後も質の高い支援と体制の改善に努めてまいります。

かけはし

当年度のスローガン「地域に根付く～始まり・種まき～」のもと、連携強化と業務基盤の充実に努めました。アシスト・かけはしの運営では、毎朝のオンライン申し送りや定期会議を通じ、密な情報共有と円滑な連携体制を確立。相談員体制の拡充に伴い、家庭環境や内容に応じた適切なケース分配を実現しました。災害対策ではBCPに基づく要支援者リストを作成し、法人の避難訓練にも積極的に参加。人材育成の面では、地域での講演や活動報告を通じて専門性を発揮しました。さらに「5S活動」での課題の見える化や、医療機関と連携した「新興感染症対策協議会」の立ち上げなど、地域で安心して暮らせる仕組みづくりを着実に進めた一年となりました。

ジョーの家・宮前の家

当年度はスローガン「地域で生きること～生活力を高める～」を掲げ、グループホーム事業を展開しました。11月には新たな住居「宮前の家」を開設。入居者が地域で安心して暮らせる場を提供できたことは、本人やご家族にとって大きな支えとなりました。業務面では「山王の家」での実務確認や避難訓練の見学を通じ、運営体制の安定化を図りました。専門性向上に向けては、世話人会議でのミニ研修を実施し、精神障害への理解を深めたほか、各連絡会への参画を通じて外部との連携や情報収集を強化しました。今後も地域生活を支える拠点として、利用者の生活力向上と支援の質の充実に努めてまいります。

佐倉市よもぎの園

当年度は「Co-challenge ～一致団結し新たなよもぎへ～」をスローガンに掲げ、事業運営に邁進しました。相談支援事業所との連携強化を図りつつ、グループホーム「宮前の家」を開所し、入居者の自立した生活を支援しています。稼働率の向上を目指し新卒者の受け入れや盲学校との関係維持に努めたほか、地域社会との交流として地区社協活動への参画や町内会との連携も継続しました。施設面では園庭改修や照明のLED化、各設備の更新など環境整備を推進。また、災害時の事業継続計画（BCP）に基づく訓練や、感染症対策委員会の強化、協力医療機関との協議会設置など、安全で安定した運営体制を確立しました。5S活動を通じた業務改善にも注力し、今後もさらなるサービスの質の向上を目指します。

ワークショップかぶらぎ

スローガン「晴れ晴れと輝く笑顔と慈愛の心」を掲げ、基本に立ち返り精神保健福祉への理解を深めた一年でした。新体制としてグループホーム「宮前の家」の運営も加わり、各所での連携強化に注力しました。職員育成では「IMR講座」への参加や専門研修を通じ、経験の浅い職員への技術伝達を徹底。作業面では新規開拓には課題が残るも、既存事業の振り返りにより平均工賃の増額を達成しました。また、学生との連携によるプログラムの充実や、地域との交流拠点である「パントリー」活動を継続。利用者が自ら障害理解を促す姿を通じ、事業所と地域の絆を深め、利用者一人ひとりの可能性を拓く質の高い支援を実践しました。

アシスト

当年度は「様々なつながり・連携で地域生活を支える」をスローガンに掲げ、特に人材育成と連携強化に注力しました。人材育成では、初任者研修やグループスーパービジョン研修への派遣、会議内でのミニ研修などを実施。若手職員には外部発表の機会を設けるなど、実践を通じた成長を促しました。また、法人内の事業所体験や委員会活動を推進し、組織間の横の連携を深めました。地域との協働では、合同事例検討会を通じた意見交換を継続したほか、千葉県総合救急災害医療センターの見学を実施し、関係機関とのネットワークを構築しました。今後も連携の輪を広げ、質の高い地域生活の支援に取り組んでまいります。



はちす苑

当年度は、組織基盤の強化とサービスの質の向上を目指し、多角的な取り組みを進めてまいりました。特養・ショートにおいては、中途採用の職員が入职し年度後半には人員が充足しました。また、内部の介護支援専門員が独り立ちしケアプランの充実が図られたほか、次世代リーダー育成研修への参加や5S活動の導入を通じ、職員の意識向上と専門性の研鑽に励んでいます。施設面では26年目の大規模修繕を行い、内装のリフレッシュにより明るい空間を実現いたしました。安心・安全なサービス提供のための取り組みとして、新興感染症への対応フローチャート作成や、大規模地震を想定した「考えて行動する」防災訓練を実施しました。災害対応については、各事業所での行動フロー作成にも着手し、全職員への浸透を図ってまいります。また、千葉県福祉サービス第三者評価では、多様な活動や利用者が自由に過ごせる環境づくりが高く評価されました。今後は、定期的なアンケートを通じて更なる満足度向上を目指してまいります。各事業所においても、地域との連携を深めながら着実な歩みを進めております。通所介護では、クラブ活動の再編や新規ボランティアの受け入れにより、地域交流と個別支援を強化しました。訪問介護では、地域圏域への貢献度や内部ケアマネジャーとの連携率で高い実績を記録しております。居宅介護支援事業所では、主任ケアマネジャーの専門性を活かし、インフォーマルな社会資源を活用した柔軟なプランニングを推進いたしました。相談員による地域への営業活動や、オレンジカフェの運営を通じた住民との繋がり作りにも積極的に取り組んでおります。なお、長年受託してまいりました「佐倉市高齢者等ふれあい配食サービス事業」につきましては、担い手不足等の事情により3月末をもって終了いたしました。長年地域の方々の暮らしを支え、安否確認を行ってきたこの事業は、私たちにとって大切な地域貢献の一つでありました。今後は専門業者へ引き継がれますが、これまでの経験を活かし、引き続き地域福祉の拠点として皆様が住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、誠心誠意取り組んでまいります。

南部地域包括支援センター

当年度のスローガン「その人らしい生活を地域で支える」のもと、高齢者を地域全体で支える体制づくりに注力しました。地域ケア圏域推進会議では災害時の見守りを検討し、生活支援コーディネーターが中心となり買い物支援等の地域資源と高齢者のマッチングを推進。住民アンケートからも移動や見守りのニーズが明確となりました。啓発活動では介護予防・認知症講座を計22回開催し、「包括だより」での情報発信にも努めました。また、民生委員や多職種との交流・事例検討会を重ね、支援の質の向上を図りました。さらに法人内事業所とも連携し、切れ目のない支援を実現。今後も個別支援と地域課題の両面から、住み慣れた地域での暮らしを支えてまいります。

佐倉市南部児童センター

南部児童センターでは子どもたちが安心して過ごせる「第3の居場所」として支援を続けてまいりました。当年度は「なんぶサマーフェスタ」の初開催など意欲的な取り組みが実を結び、総利用者は約2万7千人と前年度から大幅に増加しました。特に乳幼児親子の来館や小学生の利用が好調で、新導入の「カード式来館システム」により利便性も向上しました。また、子ども主体の行事にも注力し、実行委員会を組織した「おばけやしき」は来場者が大きく伸長。中高生が中心のボランティアクラブ「スマイルクラブ」も地域貢献活動で輝きを放ちました。子どもたちの主体性と笑顔があふれるセンターとして、今後も地域と共に成長を続けてまいります。

学童保育所

『子どもまんなか DOまんなか』をスローガンに掲げ2年目になりました。子どもたちの主体性を尊重し、意志を汲み取ったイベント運営に注力しました。保育では「見守り」のあり方を再考し、保護者への寄り添いや状況把握の徹底を課題として再認識しました。特別支援が必要な子に対しては、加配や巡回相談を活用し、安全確保と個々の関心に応じた関わりを推進しました。職員連携では、ICT活用による情報共有と、持ち回りのケース研修で資質向上を図り、資格取得者も輩出。業務面では管理システムを導入し、手作業の軽減と迅速な情報共有を実現しました。今後も現場の声を取り入れた運用改善を行い、子どもと保護者に寄り添う質の高い保育を目指してまいります。

南部地域福祉センター

南部地域福祉センターでは「さまざまな活動で交流でき、活気ある地域福祉センターを」のスローガンのもと、活動を推進しました。本年度は、A棟の設備故障により6月より貸館や事業のすべてをB棟へ移行する事態となりましたが、研修室の分割利用や事業の2部制導入など工夫を重ね、地域の方々の場を絶やさぬよう奔走しました。「南部文化祭」や「教養教室発表会」も規模を調整しつつ実施し、利用者様の満足につながりました。講座では、専門家を招いた介護者向けのボランティア養成講座や、地域ケアを学ぶ講演会を実施。また、ボランティア活動の奨励や他センターとの連携も継続しました。玄関への生け花装飾など温かい交流も育まれました。困難な状況下でも地域と連携し、活気を維持できた実り多い一年となりました。



法人単位事業活動計算書				第二号第一様式
(自)令和 7年 4月 1日(至)令和 8年 3月31日				
(単位:円)				
勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減等の部	介護保険事業収益	519,881,783	524,491,989	△4,610,206
	老人福祉事業収益	41,650,319	42,444,043	△793,724
	保育事業収益	186,768,500	181,415,600	5,352,900
	就労支援事業収益	19,376,461	18,888,230	488,231
	障害福祉サービス等事業収益	1,629,848,114	1,622,657,070	7,191,044
	その他の事業収益	103,108	26,500	77,608
	経常経費等引当金収益	22,321,879	5,782,910	16,538,969
	その他の収益	12,239,870	7,592,788	4,647,082
	サービス活動収益計(1)	2,432,190,034	2,403,298,130	28,891,904
	人件費	1,530,432,028	1,491,290,484	39,141,544
サービス活動増減等の部	事業費	299,931,858	287,626,796	12,304,759
	事務費	390,697,091	309,204,586	81,492,505
	就労支援事業費用	21,137,149	20,239,057	898,092
	減価償却費	171,835,889	171,685,387	177,502
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△49,230,379	△49,540,746	310,367
	徴収不能額		23,350	△23,350
	サービス活動費用計(2)	2,364,803,330	2,230,501,914	134,301,416
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	67,386,704	172,796,216	△105,409,512
	受取利息配当金収益	5,595,975	6,658,321	△1,062,346
	投資有価証券評価益	74,042,270	164,901	73,877,369
サービス活動増減等の部	その他のサービス活動外収益	9,460,436	11,506,890	△2,046,454
	サービス活動外収益計(4)	89,098,681	18,330,112	70,768,569
	その他のサービス活動外費用	3,491,055	3,436,732	54,323
	サービス活動外費用計(5)	3,491,055	3,436,732	54,323
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	85,607,626	14,893,380	70,714,246
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	152,994,330	187,689,596	△34,695,266
	施設整備等補助金収益	5,360,000		5,360,000
	特別収益計(8)	5,360,000	0	5,360,000
	固定資産売却損・処分益	55,067	195,742	△140,675
	国庫補助金等特別積立金増立額	5,360,000		5,360,000
特別増減等の部	特別費用計(9)	5,415,067	195,742	5,219,325
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△55,067	△195,742	140,675
	税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	152,939,263	187,493,854	△34,554,591
	法人税・住民税及び事業税(12)	240,500	146,500	94,000
	当期経路経活動増減差額(13)=(11)-(12)	152,698,763	187,347,354	△34,648,591
	前期繰越活動増減差額(14)	6,096,833,953	6,018,269,727	78,573,226
	当期繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)	6,249,532,716	6,205,608,081	43,924,635
	基本金取崩額(16)			
	その他の積立金取崩額(17)	116,214,200	91,225,872	24,988,328
	その他の積立金増立額(18)		200,000,000	△200,000,000
特別増減等の部	次期繰越活動増減差額(19)=(15)+(16)+(17)-(18)	6,365,746,916	6,096,833,953	268,912,963

法人単位貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

(単位:円)			
資産の部		負債の部	
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,885,972,320	1,668,799,677	217,172,643
現金預金	1,471,845,156	1,264,449,612	207,395,544
事業未収金	396,287,820	389,787,485	6,470,335
未収金	0	49,842	△49,842
国庫補助金	5,451,040	3,722,718	1,728,922
貯蔵品	1,555,167	734,935	820,232
預け金	35,400		35,400
立替金	7,620,350	6,977,814	642,536
前払金	2,062,620	1,782,560	280,060
前払費用	819,310	815,996	3,314
その他の流動資産	692,357	846,215	△153,858
徴収不能引当金	△367,500		367,500
固定資産	6,132,930,276	6,236,256,143	△103,325,868
基本財産	4,585,657,941	4,615,692,146	△30,034,204
土地	3,221,894,828	3,185,265,828	36,629,000
建物	1,363,063,113	1,430,536,317	△66,873,204
その他の固定資産	1,847,372,234	1,619,653,998	△228,188,694
建物	1,639,918	2,003,229	△363,311
構築物	20,037,481	8,835,587	11,201,894
機械及び装置	2,448,080	3,085,931	△637,851
車両運搬具	5	5	0
器具及び備品	68,808,171	44,083,794	24,724,377
建設仮勘定	0	57,302,100	△57,302,100
有形リース資産	2,893,620	5,207,920	△2,314,300
権利	2,840,615	3,295,795	△445,820
ソフトウェア	8,238,075	10,550,851	△2,312,776
投資有価証券	551,331,481	477,289,211	74,042,270
退職給付引当資産	173,355,550	176,245,750	△2,890,200
人件費積立資産	63,000,000	63,000,000	0
医療積立資産	334,366,000	345,366,000	△11,000,000
備品等購入積立資産	33,421,760	33,421,760	0
施設整備積立資産	281,920,593	387,134,793	△105,214,200
工費変動積立資産	1,863,068	1,863,068	0
設備等整備積立資産	435,825	435,825	0
流動負債	263,688,952	254,356,653	9,332,299
事業未払金	120,009,590	107,460,091	12,549,500
1年以内返済予定リース債務	1,297,660	2,314,300	△1,016,640
預り金	801,548	578,552	222,996
職員預り金	13,849,109	15,353,813	△1,504,704
貸倒引当金	126,200,151	126,840,625	△640,474
その他の流動負債	1,530,888	1,809,272	△278,384
固定負債	175,551,510	179,739,370	△4,187,860
リース債務	1,595,960	2,893,620	△1,297,660
退職給付引当金	173,355,550	176,245,750	△2,890,200
長期預り金	600,000	600,000	0
負債の部合計	439,240,462	434,096,023	5,144,439
純資産の部			
基本金	1,306,000	1,306,000	0
国庫補助金等特別積立金	497,691,971	541,598,358	△43,906,427
その他の積立金	718,097,246	831,221,446	△113,214,200
人件費積立金	63,000,000	63,000,000	0
修繕積立金	334,366,000	345,366,000	△11,000,000
備品等購入積立金	33,421,760	33,421,760	0
施設整備積立金	281,920,593	387,134,793	△105,214,200
工費変動積立金	1,863,068	1,863,068	0
設備等整備積立金	435,825	435,825	0
次期繰越活動増減差額	6,365,746,916	6,096,833,953	268,912,963
(うち当期活動増減差額)	152,698,763	187,347,354	△34,648,591

法人単位貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

(単位:円)						
資産の部			純資産の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減
差入保証金	412,800	412,800	0			
長期前払費用	359,292	1,119,579	△760,287			
資産の部合計	8,018,902,595	7,905,055,820	113,846,775	純資産の部合計	7,579,662,133	7,470,959,797
				負債及び純資産の部合計	8,018,902,595	7,905,055,820
					113,846,775	

2026年度 会員募集

年会費

個人会員 1,000円 (1口)

団体会員 10,000円 (1口)

会期：2026年7月1日～2027年6月30日

新規会員、及びご登録会員の皆様のご入会を

心よりお待ちしております。



《お問い合わせ先》 愛の灯台基金事務局 043-484-6398

感謝のコーナー (2026.4～2026.7)

法人ならびに各施設に対して、ご芳志をいただいた皆様です。厚く御礼申し上げます。勝手ながら敬称を省略させていただきます。(順不同)

【個人】 川俣正人

【団体】 声の花束実行委員会

日誌抄録

(2026.4～2026.7)

4月	1日 辞令交付式 1日 新任職員研修 6日 9日 5S 研修 15日 地域食堂ともいき 21日 南図書館販売会 25日 ほっとたいむ「春の落語会」	6月	17日 愛光家族協議会総会 19日 南図書館販売会 20日 地域食堂ともいき 23日 声の花束 28日 嚙下摂食研修 3日 コ・ヒューマントレーニング 4日 山王小福祉学習 6日 理事会 / 福祉職場まるごと体験 7日 福祉ジョブズ 8日 根郷中福祉学習 9日 夜間想定避難訓練 10日 感染症研修	7月	12日 5S 研修 16日 南図書館販売会 17日 地域食堂ともいき 18日 山王小福祉学習 21日 評議員会 / 第三者懇談会 25日 山王小福祉学習 1日 辞令交付式 14日 南図書館販売会 15日 地域食堂ともいき 16日 メンティー交流会 17日 5S 研修 19日 愛光家族協議会
----	---	----	--	----	--

編集後記

広報誌 AIKOH も 89 号を発行することができました。今号の表紙は「日韓福祉交流会研修」の交流の様子を収めた写真です。現地では、利用者の皆様と職員と一緒に塗り絵を楽しんだほか、床屋やネイルサロンを訪れ、日常を共に過ごす中で多くの笑顔が生まれました。この日韓交流での出会いを大切にしながら、一人一人の暮らしに寄り添う福祉を目指していききたいと思います。(山崎)

編集委員

宮部和樹(ワークショップかぶらぎ・委員長) / 花澤直忠(ルミエール) / 関谷篤史(めいわ) / 関谷景子(リホーフ) / 岩井聡子(根郷通所センター) / 山崎涼子(はちす苑) / 岩崎秀夫(南部包括支援センター) / 高橋飛鳥(ワークショップかぶらぎ) / 齋藤理江(学童) / 須藤譲(本部) / 森貴裕(本部)

2026年(令和8年)8月21日発行
社会福祉法人 愛光
発行人 西原 弘明
編集人 広報委員会
〒285-0807千葉県佐倉市山王2-37-9
TEL.043-484-6391
FAX.043-484-6396
E-MAIL mail@rc-aikoh.or.jp
URL https://www.rc-aikoh.or.jp
印刷：ワークショップかぶらぎ

Aikoh フォーラム

もしもの時、誰が自分を支えてくれる？
～成年後見制度・死後事務委任の新しい動きも踏まえて～

一人暮らしで
この先が不安…

身寄りが無い、
いざというとき
どうすれば…

お金の管理、
手続きが
出来るか心配…

親の死後、
うちの子供は…

将来への不安や「もしもの時」への備えについて、一緒に考えてみませんか。地域包括支援センターと相談支援事業所が実際に関わった事例をもとに弁護士が成年後見制度や死後事務・身寄りのない方への支援などについて分かりやすくお話しします。

日時

2026

9 / 26 土

13:30~15:30
(受付13:00～)

入場無料
事前申込制

会場

佐倉市南部地域福祉センターB棟 研修室
(佐倉市大篠塚1587)

講師

東葉法律事務所 所長 弁護士
社会福祉法人愛光 理事 吉野 智氏

お問い合わせ先：佐倉市南部地域包括支援センター
電話：043-483-5520

主催：佐倉市南部地域包括支援センター・障害者生活支援センターアシスト・かけはし
後援：社会福祉法人愛光 後援会「愛の灯台基金」

絆をむすぶ、心通わせて



2026.7.6(Mon)~7.13(Mon)

日韓福祉交流研修記

言葉を超えた「ラファエルの家」とのあゆみ

平成12年秋、日本の視覚障害関係施設を訪れた「ヨジュ ラファエルの家」関係者による愛光への訪問をきっかけに、平成14年より盲重複障害福祉の分野における相互の支援向上を目指した日韓交流を重ねてきました。コロナ禍で一度中断したものの、3年前に再開、昨年度は愛光への受け入れを行ないました。今年度は愛光から研修生6名が8日間の研修へ旅立ちました。そこで得た発見や学びをご紹介します。

1日目 2日目 理念と実践の融合に学ぶ

研修は、ヨジュ市にある障害者支援施設「ヨジュ ラファエルの家」から始まりました。利用者一人ひとりの尊厳を大切に、その人らしい暮らしを支えるための工夫が凝らされたケア環境に、一同深く感銘を受けました。

2日目に訪れたソウル市の「ハサン福祉財団・ハサン障害者福祉館」では、組織としての運営理念と地域連携の仕組みを学びました。障害のある方が地域社会の中でいきいきと暮らすための包括的な支援体制は、今後の福祉を考える上で多くの学びの機会になりました。



3日目 ~ 7日目 生活の場での共感体験

「ヨジュ ラファエルの家」を再訪し、いよいよ現場での実習がスタート。生活支援の場面では、食事や余暇活動を共にし、身振り手振りを交えながらのコミュニケーションを通じて、心の距離が縮まっていくのを実感しました。また、受注作業活動を行う再活センターの見学や、医療チームとの意見交換も行われ、多角的な視点から支援のあり方を学びました。

外出・外食支援では、ネイルサロンや床屋への同行、食事を共に楽しみました。調理支援では、一緒にビビンバを作って舌鼓を打ち、食を通じた交流の楽しさを味わいました。圧巻だったのは、韓国の伝統芸能「サムルノリ」の見学です。力強い太鼓の響きとリズムに、利用者も職員も一体となって盛り上がり、音楽が持つエネルギーと癒やしの力を肌で感じました。「職員・利用者」の垣根を超え、共に時間を楽しみ、笑い合うことの大切さを再確認できた瞬間でした。



認知症サポーター養成講座 in 山王小学校



山王小学校4年生19名を対象に、福祉学習の一環として認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症サポーターとは認知症について正しく理解し、認知症のある方やそのご家族を地域で温かく見守る応援者です。講座では認知症の基礎知識や接し方について学びました。

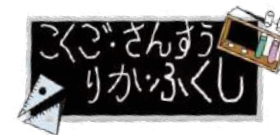


「3つのない」を学習

講座では認知症の基礎知識や、加齢による物忘れとの違い、接する際のポイントである

・驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない
という「3つのない」や

「はっきり・やさしく・ゆっくり・みじかく」
を意識した声かけについて学びました。



実演してみよう



自分たちで考えてみよう

寸劇では、認知症の方への接し方をテーマに、良い対応と悪い対応を比較しながら、子供たち自身で「どこが良くなかったか」「どう対応したらよいか」を考えました。

その中で「優しく話しかける」「ゆっくり話したほうが伝わる」「紙に書いて渡す」など、考えた意見を積極的に発表し、真剣に学ぶ姿勢が印象的でした。

地域で支えあう大切さを学ぶ

講義は市役所職員、寸劇は地域ボランティアと地域包括支援センター職員が担当しました。

子供たちは表情や声のかけ方の違いに気づき、事前学習の成果が感じられました。

今回の学びが、誰もが安心して暮らせる地域づくりの一助となることを願っています。



講座を担当した職員から

寸劇ではどこが悪かったのか、どうすれば良かったのか子供たちにわかりやすく伝えるよう意識しました。表情や体の向き、声のトーンや目線の動きなど悪い例と良い例で違いが出るよう寸劇を行いました。子供たちは細かな違いにもしっかり気づき、よく見ているなど感心しました。質問に対する受け答えもしっかりしていて、事前学習の成果が出ていたように感じます。今回講座を受けた子供たちが地域で認知症の高齢者を見かけた時、今回学んだことを思い出してくれたら嬉しく思います。

2026年10月3日(土)

11:00~15:00

第29回

愛光秋まつり

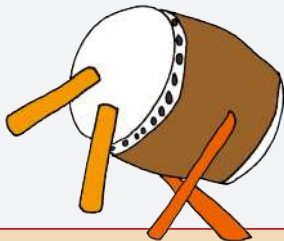
—世代を超えて、地域と共に—

場所

社会福祉法人愛光内
リホープ前駐車場(メイン会場)
支援センター

めいわ太鼓

清丸太鼓



ふれあい動物園

吹奏楽演奏
(雨天中止)



ペット連れのご来場について

- ・ペット同伴のご入場はご遠慮ください
- ・介助犬、盲導犬、聴導犬はご入場いただけます
- ・マナーパンツ(おむつ)着用のペットは一緒にご入場いただけます



会場までのQRコード
(スマートフォンのカメラで
読み取ってください)



物井⇄会場間送迎あります(10:00~15:30)

※会場内駐車場には限りがありますので、
出来るだけ交通機関をご利用ください

問い合わせ：リホープ 043-484-6395 担当：吉田